

取扱説明書

この取扱説明書はご使用になる前に必ずお読みください

3輪歩行車 ニュートライウォーカー



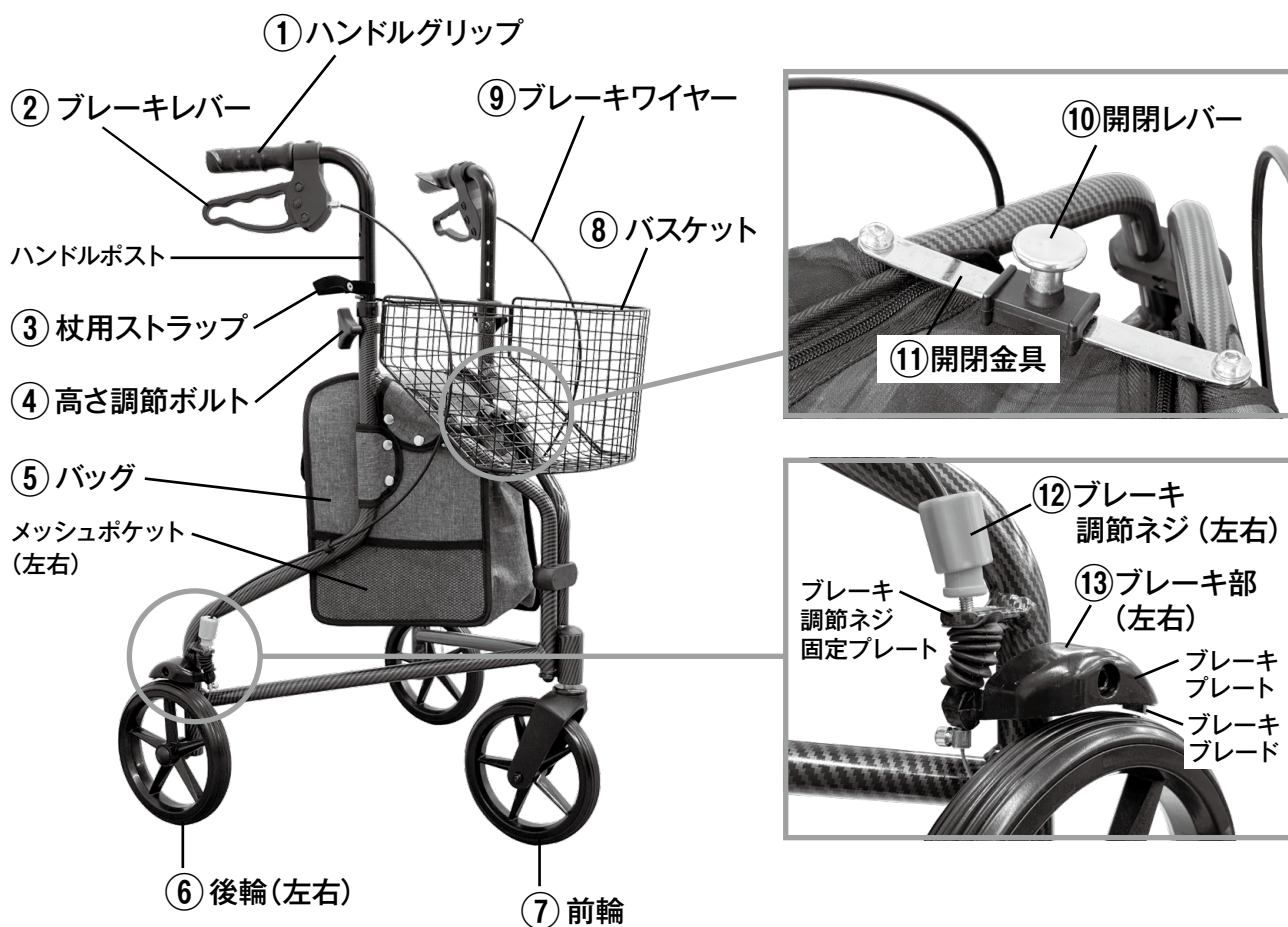
【目次】

1. 各部の名称と部品の確認	2
2. 特にご注意いただきたいこと	3
3. 安全に関するご注意	3
4. 製品の使い方・調節方法	6
<1> 車体のひろげ方・折りたたみ方	6
<2> ハンドルの高さ調節	8
<3> ハンドルブレーキの操作方法	10
<4> バッグの使い方	11
<5> バスケットの使い方	12
<6> 杖の固定のしかた	13
5. ブレーキの調節方法	14
6. ご使用前の点検	15
7. お手入れの方法	16
8. 保管方法	16
9. 点検・保守	17
10. こんな時は	18
11. 仕様	19
12. 廃棄	20
13. 保証とアフターサービス	20
保証書	21

このたびは、インタージェットの歩行車をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は、製品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。
介護される方も一緒にお読みいただき、正しく安全な取扱方法をご理解のうえ、ご使用ください。

取扱説明書はお読みになられた後も、いつでも見られるところに保管してください。
また、ご不明な点がございましたら、お買い求めの販売店、または弊社までお問い合わせください。
本製品は改良などの仕様変更により、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。

1. 各部の名称と部品の確認



- ①ハンドルグリップ (左右) …… 歩行する際に握る部分です。
- ②ブレーキレバー (左右)・ 駐車ブレーキレバー (左右) …… ブレーキをかける時はレバーを握ってください。
………… レバーを押し下げると駐車ブレーキがかかります。
- ③杖用ストラップ …… メッシュポケットの中に杖の先端を入れ、ハンドルポストに杖用ストラップで巻きつけて固定します。杖の持ち運びができます。
- ④高さ調節ボルト(左右) …… ハンドルの高さを調節する際に使います。6段階調節できます。
- ⑤バッグ…… 容量約14ℓのバッグで取り外しができます。保温・保冷仕様で5kgまで荷物の収納ができます。
- ⑥後輪 (左右) …… 旋回しない車輪です。横すべりを防止します。
- ⑦前輪 …… 直径20cmの大型車輪です。360° 自在に旋回し方向転換ができます。
- ⑧バスケット …… 2kgまでの荷物を入れられます。取り外しができます。
- ⑨ブレーキワイヤー (左右) …… ブレーキや駐車ブレーキを操作する為のワイヤーです。
- ⑩開閉レバー …… レバー操作によって、車体の折りたたみを行います。
- ⑪開閉金具 …… フレームを広げたり、折りたたんだりする際の連結金具です。
- ⑫ブレーキ調節ネジ (左右) …… ブレーキ・駐車ブレーキの効き具合を調節します。
- ⑬ブレーキ部 (左右) …… ブレーキプレートのブレードで車輪を押し付け、ブレーキがかかります。

2. 特にご注意いただきたいこと



本製品は、歩行を支援いたしますが、加齢等により操作機能が低下し本製品が次第に合わなくなり、危険となる場合がございます。歩行・操作が困難となった場合は、本製品の使用をおやめください。

- 小回りが良くききますが、片手操作・片側への重心のかけすぎは、バランスを崩し転倒の原因となります。また無理な段差の乗り越えは、絶対にしないでください。
- 身長・体格に応じてハンドルの高さ調節ができます。左右のハンドルの高さは同じであるか必ず確かめてください。左右の高さが違うと操作性が悪くなり、バランスを崩し転倒の原因となります。
- 歩行中は必ず両手で左右のハンドルをしっかりと握って操作してください。
- ブレーキレバーはブレーキ、駐車ブレーキの際に使用します。片方だけのブレーキ操作、駐車ブレーキ操作は絶対におやめください。反対側の車輪だけが旋回し、バランスを崩し転倒の原因となります。必ず左右両側のブレーキを同時にかけてご使用ください。また駐車ブレーキも必ず左右両側にかけてください。駐車ブレーキがかかっていない片方の車輪が勝手に動き大変危険です。





3. 安全に関するご注意

*ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

*ここに示した注意事項は、製品を安全にお使いいただき、あなたや他人の危害を未然に防止する為のものです。

[表示マークの説明] *正しい取り扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

 警告	取り扱いを誤った場合に死亡または重傷にいたる可能性が想定される事を示しています。
 注意	取り扱いを誤った場合に、傷害にいたる可能性または物的損害の発生が想定される事を示しています。
 禁止	してはいけないこと (禁止内容) を示しています。
 必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

警告

(生命にかかわるケガをする恐れが想定される内容を示しています)

禁止

- この製品は、歩行を支援する「歩行車」です。それ以外の用途には使用しないでください。
- この製品は体重100kgを超える方が使用されると、本体が破損・変形してケガをする恐れがあります。この製品の耐荷重(最大使用者体重)を超える方は使用しないでください。
- 歩行が大変困難な方、正しく操作ができない方(認知症や小さなお子さまなど)には使用させないでください。
- 駐車ブレーキをかけたまま歩行したり、引きずったりしないでください。転倒し、ケガをする原因となります。
- 歩行中、片方だけのブレーキ操作はしないでください。反対側の車輪だけが旋回し、バランスを崩し転倒の原因となります。
- 片側だけに重心をかけて使用しないで下さい。バランスを崩し転倒の原因となります。
- 高さ調節ボルトが緩んだ状態で使用しないでください。高さ調節ボルトが外れハンドル操作ができなかったり、ガタツキで操作が不安定になり転倒する恐れがあります。また部品を失くす原因となります。
- 開閉金具が一直線になっている事を確認し、必ず車体が完全に開ききった状態で歩行してください。
- 勢いをつけて段差を乗り越えないでください。転倒しケガをする恐れがあり大変危険です。またフレーム及び車輪等の損傷の原因となります。
- バッグ、バスケット以外の場所に荷物を掛けたり、載せたりしないで下さい。重心が不安定でバランスを崩し、転倒の原因となります。
- 滑りやすい床面、泥のある場所、ぬかるみや水たまりでは使用しないでください。安定性が悪くなり、転倒の原因となります。
- 夜間、雨や雪、風の強い日、凍結道路など、歩行しづらい時は使用しないでください。
- 坂道や傾斜のあるところで駐車しないでください。安定性が悪くなり、転倒の原因となります。
- 複数の人数で使用しないでください。この歩行車は一人用です。事故、車体の破損の原因となります。
- 階段やエスカレーターの上り降りに使用しないでください。転倒しケガの原因となります。
- 介助者は車輪の向きを変えるなど、利用者の意図していない無理な力をかけて歩行補助をしないでください。
- 踏み台としてフレームに足をかけないでください。転倒しケガをする恐れがあります。またフレームの破損の原因となります。
- 改造・分解をしないでください。強度や耐久性が劣化して危険です。また事故の原因となります。
- 歩行車を投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。

必ず守る

- 歩行車の周りの物を取るときや、休憩などで歩行車から離れる場合は、必ず左右の駐車ブレーキを確実にかけてください。歩行車が動き事故やケガをする恐れがあります。
- 歩行中のブレーキ操作は、必ず両手でハンドルを握り、左右両側のブレーキを同時にかけてください。
- 道路通行の際は必ず右側通行をしてください。また歩道を通行してください。
- 踏み切り横断の際は十分に注意してください。車輪がレールの溝にはさまる可能性があります。必ず介助者と渡ってください。
- 段差の前では一旦停止して十分注意しながら乗り越えてください。
- ご使用になる前には、17ページの「点検・保守」をよくお読みいただき、点検を行なってください。点検を怠ると思わぬケガをする原因となります。

⚠ 注意



- 可動部（車輪・ブレーキレバーとハンドルグリップの間・開閉金具の間）に手を入れないでください。手が挟まり、ケガの原因となります。
- ブレーキレバーは作動方向以外に力を加えないでください。また必要以上に力を加えないでください。ブレーキレバーが変形・破損する恐れがあります。
- 歩行する際は片手で操作しないでください。傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作はバランスを崩す原因にもなります。ハンドルは必ず両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと歩行してください。
- バッグには、5kg以上の荷物は入れないでください。また鋭利なもの、乳幼児やペットを入れないでください。破損や思わぬ事故の原因となります。
- 下記のようなところに歩行車を放置しないでください。
 - ・車道に近いところ　・人通りのあるところ　・路面に段差や凹凸があるところ
 - ・湿気の多いところ　・雨風の当たるところ　・海沿いの屋外（潮風の当たるところ）
 - ・直射日光の当たるところ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
 - ・ほこりの多い場所　・子どもがいたずらをする恐れのある場所
 - ・非常口、消火器、消火栓の前　・坂道　・暑い日や寒い日の屋外
- 歩行車を火気に近づけないでください。プラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど危険です。熱湯消毒についても同様です。



- ハンドルの高さは、必ず左右同じ高さにしてください。
- ブレーキは必ず手で操作してください。他の物でブレーキ操作しないでください。
- 回転している車輪に指や物等を差し込まないようにしてください。
- 傾斜地での歩行は、歩行車が予想外の方向に進むなど大変危険です。また転倒の原因となります。十分に注意して歩行してください。
- 発進するときや段差を乗り越えるときには、車輪が真っ直ぐになっていることを確認してから歩行してください。
- 雨ざらしにしたり、雨・雪の日の使用、ぬかるみ、水たまり等のある場所での使用はお避けください。車輪のサビ等により故障の原因となります。
- 次のような場所・状況での使用は危険です。使用を避けるか、介助者に同行してもらってください。
 - ・交通量の多い道路　・防止柵のない側溝や路肩付近など　・凹凸の激しい道
 - ・深い砂利道や砂道　・その他危険が予想される場所
- 夜間や、降雨時は通行者や車から発見しにくくなります。十分にご注意ください。
- 正しく操作が出来ない方は絶対に使用しないでください。
- 保管は屋内で行なってください。
- 高さ調節ボルトの取り付けは、必ず本体フレームの外側から内側に差し込んでください。誤って内側から無理に締め付けようとするとボルトが破損し、故障の原因となります。

「高さ調節ボルトの取付について」の詳細は、P.8 <2>ハンドルの高さ調節へ

4. 製品の使い方・調節方法

<1>車体のひろげ方・折りたたみ方

■ 車体のひろげ方



① 駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。



② 左右両方のハンドルグリップを握ります。左後輪を少し浮かせながら、左ハンドルを動かし車体を広げていきます。

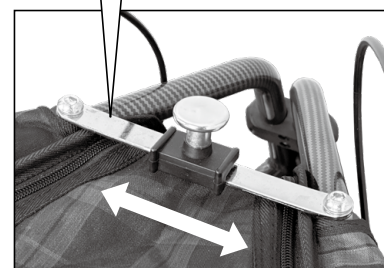


③ 浮かせた左後輪を地面に戻し、左右のハンドルを握って車体フレームを広げます。



④ 開閉金具がしっかりと一直線になるよう、開閉レバーを前に押し出してください。

ポイント
開閉金具が一直線になるよう広げる



⑤ 開閉金具が完全に一直線になり、ロックされた状態になったことを確認してください。

⚠ 警告

⚠ 必ず守る

- 開閉レバーがロックしていることを必ず確認し、車体が完全に開ききった状態で歩行してください。⇒ バランスを崩し、転倒の原因となります。

⚠ 注意

⚠ 必ず守る

- 車体を広げる前に必ず左右両方のブレーキレバーを押し下げ、駐車ブレーキをかけてください。

■ 車体の折りたたみ方

*車体を折りたたむ際は、必ずバッグの中の物を取り出してください。



① 駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。



② 開閉レバーを手前に引き、ロックを解除します。開閉金具が少しV字になったことを確認します。



③ 左右のハンドルを握り、左後輪を少し浮かせます。左ハンドルを内側に動かしながら、車体を完全に折りたたみます。



⚠ 注意

⊘ 禁止

- 折りたたむ際、開閉金具の前に手を入れないでください。
⇒ 手や指を挟むなどの危険があり、ケガをする恐れがあります。



! 必ず守る

- 車体を折りたたむ前に必ず左右両方のブレーキを押し下げ、駐車ブレーキをかけてください。
- 折りたたみは必ずハンドルで操作してください。開閉レバー・開閉金具のみで折りたたまないでください。
⇒ 部品が破損する原因になります。
- 車体を折りたたむ際には必ずバッグの中の物を取り出してください。
⇒ 車体を十分に折りたためなかったり、バッグが変形・破損する恐れがあります。



<2>ハンドルの高さ調節

*ハンドル高さは、80cm～95cmの範囲で、6段階の調節ができます。

*出荷時は一番低い高さ位置に設定されています。

⚠ 注意

❗ 必ず守る

- 高さ調節ボルトの取り付けは、本体フレームの必ず外側から内側に差し込んでください。
⇒誤って内側から無理に締め付けようとするとボルトが破損し、故障の原因となります。



レバーを押し下げる

- ①駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。



高さ調節ボルト

- ②ハンドルの高さは6段階に調節できます。高さ調節ボルトを抜き差しし、適切な高さに調節します。

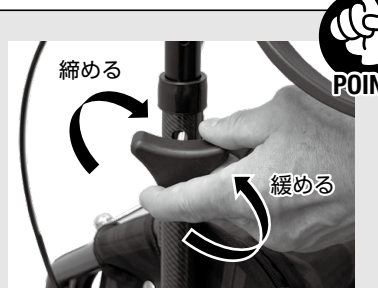


POINT

高さ調節ボルトは必ず外側方向から内側へ差し込んでください



- ③ハンドルの高さが左右同じ高さであるか確認した後、高さ調節ボルトを確実に締め付けてください。



締める

緩める



POINT

高さ調節ボルトは、右(時計回り)に廻すと締まり、左(反時計回り)に廻すと緩みます。

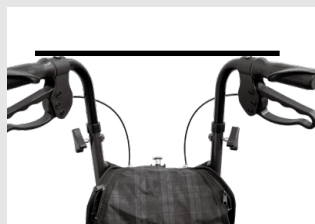


- ④締め付け後は、ハンドルにがたつきがないか、また左右ブレーキの効き具合をそれぞれ確認してください。

- ⑤再調節にてハンドルの高さを変更する場合は、①～④を繰り返します。



POINT



ハンドルの高さは、必ず左右同じ高さにしてください。



POINT



適切なハンドルの高さは、直立し、手首にある突起部分の位置とハンドルグリップの位置が同じ高さになるように設定してください。

⚠ 警告

⚠ 必ず守る

- 左右の駐車ブレーキを確実にかけてから、ハンドルの高さ調節を行ってください。
- ハンドルの高さは必ず左右同じ高さに調節してください。
⇒ 左右の高さが異なると、バランスを崩し転倒の原因となります。
- 高さ調節ボルトはしっかりと締め付けてください。がたつきが無いか確認してください。
⇒ 高さ調節ボルトを締め付けず、緩んだ状態でご使用いただくと、ハンドルのがたつきが生じ、歩行中バランスを崩して転倒の原因となります。また本体から外れ、部品を紛失する恐れがあります。
- ハンドルの高さ調節を行った場合は、必ず左右のブレーキの効き具合を確認してください。ブレーキの効きが弱い場合はブレーキの調節を行ってください。必ず左右のブレーキの効き具合が同じとなるよう調節を行ってください。
⇒ 効きが弱い、左右の効き具合の違いで、ハンドルを取られバランスを崩し転倒する恐れがあります。

「ブレーキの調節」の詳細は、P.14「ブレーキの調節方法」へ 

<3>ハンドルブレーキの操作方法

■ ブレーキのかけ方



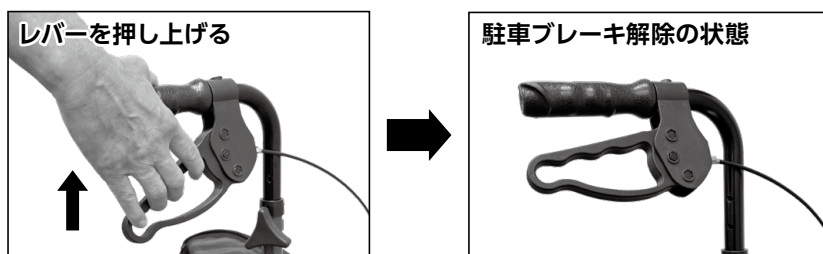
- ブレーキレバーに指をかけ、強く握るとブレーキが効きます。
- ブレーキをかけたときに左右の後輪がしっかり止まっていれば正常です。
- 握った指を離すとレバーは元に戻り、ブレーキが解除されます。

■ 駐車ブレーキのかけ方



- ブレーキレバーを押し下げ、下位置でレバーを固定させる。駐車ブレーキがかかり、後輪がロックされます。
- 下位置でレバーが固定し、左右の後輪がしっかり止まっていれば正常です。

■ 駐車ブレーキの解除



- 駐車ブレーキを解除したいときは、レバーを引き上げると解除されます。

⚠ 警告

⊘ 禁止

- 歩行中、片方だけのブレーキ操作はしないでください。
⇒反対側の車輪だけが旋回し、バランスを崩し、転倒する恐れがあります。歩行中にブレーキをかける時は、必ず両手でハンドルを握って、左右両側のブレーキを同時にかけてください。
- 駐車ブレーキをかけたまま歩行したり、引きずったりしないでください。
⇒転倒する原因となります。
- 傾斜地では駐車しないでください。
⇒傾斜地では駐車ブレーキをかけても歩行車が動く場合があり、大変危険です。

⚠ 注意

⊘ 禁止

- ブレーキ操作の時に、ハンドルグリップとブレーキレバーの間に指を入れないでください。
⇒指をはさんでケガをする恐れがあります。

<4>バッグの使い方

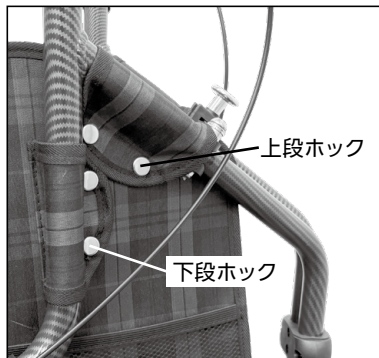
*バッグの最大積載量は5kgです。

*車体を折りたたむ際は、必ずバッグの中の物をすべて取り出してください。

*バッグを取り付け・取り外しを行う前に、必ず左右の駐車ブレーキをかけてください。
また必ずバッグの中の物を取り出してください。



バッグはファスナーの開け閉めで物を入れます。



- 上段ホックは本体横フレーム、
下段ホックは本体縦フレームにそれぞれを取り付けます。
- ホックで取り付け、取り外しができます。
- 取り付ける場合、ホックがパチッと音がするまでしっかりはめ込み、
外れないか確認してください。

⚠ 警告

⊘ 禁止

- バッグには鋭利なもの、乳幼児やペットを入れないでください。
⇒転落・転倒によりケガをしたり、歩行車が破損・変形する恐れがあります。
- バッグの中には5kg以上のものを入れないでください。
⇒バランスを崩し転倒する恐れがあります。また歩行車やバッグが変形・破損する恐れがあります。
- バッグ以外の場所に荷物を掛けたり、載せたりしないで下さい。
⇒重心が不安定になり、転倒する恐れがあります。

⚠ 注意

❗ 必ず守る

- 車体を折りたたむ際には必ずバッグの中の物を取り出してください。
⇒車体を十分に折りたためなかったり、バッグが変形・破損する恐れがあります。

<5> バスケットの使い方

*バスケットの最大積載量は2kgです。

*バスケットを取り付け・取り外しを行う前に、必ず左右の駐車ブレーキをかけてください。

また必ず中の物を取り出してください。

■ バスケットの取り付け方



レバーを押し下げる

① 駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。



開閉レバー

② 開閉レバーがロックしていることを必ず確認し、車体が完全に開ききった状態にしてから取り付けてください。



ハンドルポスト

③ 片方のバスケットフックをハンドルポストに引っ掛けます。



バスケットフック

ハンドルポスト

④ もう片方のバスケットフックをハンドルポストに引っ掛けます。



バスケット
引っ掛け穴

開閉レバー

⑤ 開閉レバーにバスケット引っ掛け穴を通してバスケットを固定させます。



ブレーキワイヤー

ブレーキワイヤーを
バスケットの外に逃がす



ブレーキワイヤーを
バスケットで押さえないこと



POINT

左右のブレーキワイヤーが必ずバスケットの外側になるように取り付けてください。ブレーキワイヤーがバスケットの下に押さえられると、ワイヤーのテンションが上がりブレーキの効き具合に影響が出ます。

⚠ 注意

❗ 必ず守る

- 左右の駐車ブレーキを確実にかけてから、バスケットの取付を行ってください。
- 左右のバスケットフックがハンドルポストに引っかかっているか、またバスケット引っ掛け穴に開閉レバーが通ってしっかりと固定されているかを必ず確認してください。
- 左右のブレーキワイヤーがバスケットの外側に通るように取り付けられているかを必ず確認してください。

■ バスケットの取り外し方



レバーを押し下げる

① 駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。



② バスケットを持ち上げ、開閉レバーからバスケット引っ掛け穴を抜きます。



③ バスケットを斜め上に持ち上げ、引っ掛けられていた片方のバスケットフックだけを先ずハンドルポストから外します。

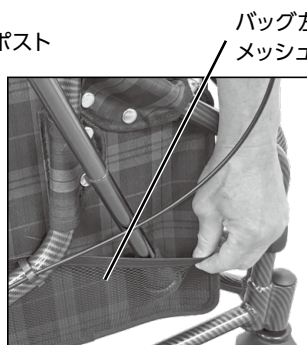


④ 外し終えた、片方側のバスケットのみを更に持ち上げ、少し回転させながら片方のバスケットフックを外します。

<6> 杖の固定のしかた



① 杖用ストラップをハンドルポストに取付けてください。ホックをパチッと音がするまではめ込み、外れないか確認してください。



② バッグのメッシュポケットに杖の先端を収納してください。



③ 杖をストラップで巻きつけ、マジックテープで留めてください。杖がハンドルポストにしっかりと固定されているか確認してください。

杖を取り付けた状態



⚠ 注意

- 杖の先端は確実にメッシュポケットに収納されているか確認ください。
⇒ 杖が車体や前輪にはさまると歩行中にブレーキがかかり、転倒する恐れがあります。

5. ブレーキの調節方法

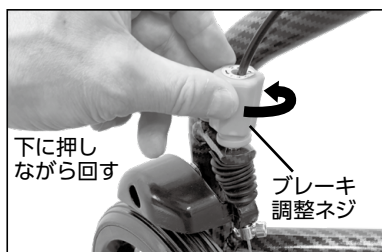
*ブレーキ調節前に先ずハンドルはちょうど良い高さか、左右の高さが同じかをご確認ください。必要な場合、ハンドルの高さ調節を行ってください。

⇒ハンドルの高さ位置に合わせて、最適なブレーキの効き具合になるよう調節を行います。

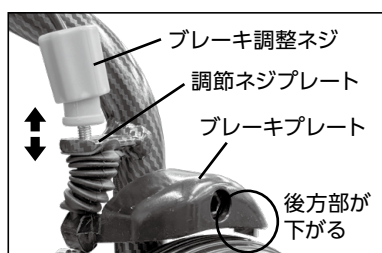
納品時は最適なブレーキの効き具合に調節されております。

タイヤゴムの摩耗等によりブレーキの効きが悪くなった時に調節を行ってください。

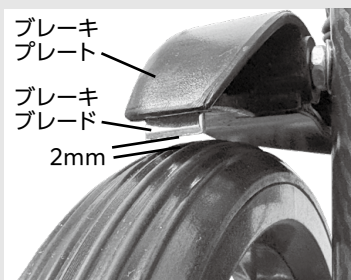
■ ブレーキの効きを強くするとき



①ブレーキ調節ネジを下に押しながらかわす、反時計方向に回します。

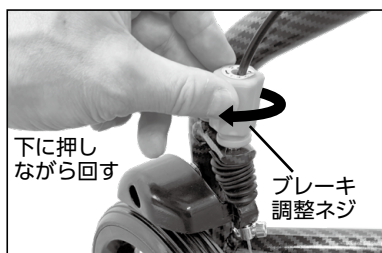


②ブレーキ調節ネジと、調節ネジプレートの間が広がり、ブレーキプレートの後方部が下がっていきます。

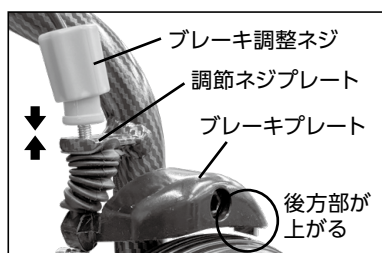


車輪ゴムとブレーキプレート下にあるブレーキブレードの隙間が2mmになったところが調節の目安です。

■ ブレーキの効きを弱くするとき



①ブレーキ調節ネジを下に押しながらかわす、時計方向に回します。



②ブレーキ調節ネジと、調節ネジプレートの間が狭まり、ブレーキプレートの後方部が上がっていきます。



調節後は、ハンドルにがたつきがないか、左右ブレーキの効き具合をそれぞれ確認してください。

⚠ 警告

⚠ 必ず守る

- ブレーキ調節前に先ずハンドルの高さ調節を行ってください。
⇒ハンドルの高さ位置に合わせて、最適なブレーキの効き具合になるよう調節を行います。
- ブレーキ調節後は必ずブレーキレバーを操作し、左右のブレーキが確実に効くこと、左右の効き具合が同じであることを確認してください。
⇒ブレーキや駐車ブレーキの効き具合が悪い、片効きの場合、歩行中にバランスを崩したり、またハンドルを取られ転倒の原因となります。
- ハンドルの高さ調節を行った際は、その都度ブレーキの効き具合を必ず確認してください。
- ブレーキ調節を行っても改善しない場合、そのまま使用せずお買い求めの販売店にご連絡の上、点検・修理を受けてください。


「ハンドルの高さ調節」詳細は、P.8 <2>ハンドルの高さ調節へ

6. ご使用前の点検

*歩行車を使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。

開閉金具の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・開閉金具はグラグラせず、しっかりと本体に取り付けられていますか。 ・またV字状にスムーズに動きますか？ ・開閉レバーを押し出しロックする際、開閉金具は一直線になりますか？
バッグ装着の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・バッグはしっかりと本体フレームに取り付けられていますか？ ・バッグのホックは外れていませんか？緩みはありませんか？
バスケットの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットは本体にしっかりと固定されていますか？ ・ブレーキワイヤーはバスケットの外側を通過していますか？
ハンドルの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・高さ調節ボルトの取り付けは、本体フレームの外側から内側に差し込まれていますか？ ・高さ調節ボルトはしっかりと締め付けられていますか？締め付け後、ハンドルのがたつきはありませんか？ ・左右ハンドルの高さは同じですか？
ブレーキ・駐車ブレーキの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレーキをかけた状態で後輪が回転しませんか。また効き具合は弱くないですか？ ・駐車ブレーキはしっかりとかかりますか。後輪が回転し、車体が動きませんか？
車輪	<ul style="list-style-type: none"> ・車軸にしっかりと固定され、グラグラしていませんか？ ・スムーズに回転しますか？ ・タイヤは磨耗していませんか？
その他全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ガタツキはありませんか？ ・まっすぐに歩行できますか？ ・各部ボルトやナットが緩んでいませんか？

警告

 必ず守る	確認を行わず、正しく作動しない状態でお使いいただくと、ハンドル操作等正常な歩行ができなくなり大変危険です。バランスを崩し転倒する原因となります。また部品の破損の恐れがあります。
---	--

7. お手入れの方法

- 汚れの除去は、市販の中性洗剤を布に染み込ませ拭き取ってください。本体の水気は乾いた布でふきとり、日陰で乾燥させてください。
- バッグは洗濯しないでください。汚れが目立つ場合は、柔らかい布で拭き取ってください。日陰で乾燥させてください。
- フレーム（車体）や車輪についた泥や砂を放置したままにしないで、必ず落としてください。
- よく絞った布で、土やほこりを拭き取ってください。
- 雨水に濡れたら、それらの水気を十分に拭き取ってください。乾いた布で水分をとり日陰で乾燥させてください。

⚠ 注意

❗ 必ず守る

- シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。
⇒変質・変色・傷みの原因となります。
- たわし、みがき粉、硬いブラシは使用しないでください。
⇒傷みの原因となります。
- 熱湯で洗浄しないでください。
⇒変質・変色の原因となります。

8. 保管方法

- 雨ざらしにしないでください。サビや劣化の原因となります。また長期間ご使用にならない時は汚れを落とし、歩行車を折りたたんだ上、日陰で保管してください。
- 寒いとき、暑いときには屋外に置かないでください。バッグの変色、硬化の原因になる恐れがあります。
- 潮風の当たる場所、直射日光の当たる場所に保管せず、必ず屋内で保管してください。変形・変質・サビなどの原因となります。
- 下記のようなところに歩行車を放置しないでください。（事故やサビ、破損の原因となります。）
 - ・車道に近いところ
 - ・人通りのあるところ
 - ・路面に段差や凹凸のあるところ
 - ・湿気の多いところ
 - ・ほこりの多い場所
 - ・子どもがいたずらをするおそれのある場所
 - ・非常口、消火器、消火栓の前
 - ・坂道や傾斜地

9. 点検・保守

●開閉金具

- ・ロックは確実にかかりますか。
- ⇒ロックがかかり、車体が完全に開いた状態でないと歩行できません。
- ・本体にしっかりと取り付けられていますか。グラグラ動きませんか。
- ⇒フレームに固定するネジが緩んでいたらしっかりと締めてください。

●ハンドル

- 高さ調節ボルトはしっかりと締め付けができますか。締め付け後、ハンドルのがたつきはありませんか。
- ⇒高さ調節ボルトに緩みがある場合、ハンドルがぐらつき大変危険です。

●本体のがたつき

- ・ネジ、ボルト、ナットの緩みがありませんか。
- ⇒緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。
- ・ネジ、ボルト、ナットを締めてもすぐ緩む、締まらないなどの不具合はありませんか。
- ⇒車体のがたつき、部品の破損、欠損につながり製品が正常に機能しなくなる恐れがあります。

●ブレーキ、駐車ブレーキ

- ・ブレーキの効き具合は悪くありませんか。
- ⇒ブレーキ調節を行ってください。
- ・左右のブレーキのかかり具合は同じですか。
- ⇒ブレーキのかかり具合が左右同じとなるようにブレーキ調節を行ってください。
- ・左右両方の駐車ブレーキはしっかりとかかりますか。
- ⇒効きが悪いときには、ブレーキ調節を行ってください。

●車輪

- ・水平な場所で車体が前後左右に傾いていませんか。
- ⇒タイヤゴムの摩耗、フレームの歪みや・ネジ、ボルト、ナットの緩みが考えられます。バランスを崩し大変危険です。
- ・車輪はしっかりと固定されているか、変形や磨耗はありませんか。
- ⇒各車輪がしっかりと固定されスムーズに回転するか、ごみが付着していないか、前輪がスムーズに首振りするかを確認してください。歩行中にバランスを崩す原因となります。また車輪が外れる原因になり大変危険です。

●ハンドルグリップ

- ・ハンドルグリップはしっかりと固定されていますか。
- ⇒ハンドルグリップがグラグラ動いたり、回転したりする場合はハンドル操作の際バランスを崩し大変危険です。

●異音発生

- ・音鳴りがしませんか。
- ⇒異音がする場合、どこでその音が発生しているかを確認してください。

●消耗部品の交換

- ・消耗部品の摩耗や変形、破損はありませんか。
- ⇒車輪、ブレーキワイヤー等は消耗部品です。異常や磨耗が発見された場合には交換が必要です。(消耗品については、20ページ「保証とアフターサービス」項目4、消耗部品をご覧ください。)

警告




必ず守る

異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して、お買い求めの販売店、又は弊社へご相談ください。

10. こんな時は

状況	原因	対処方法
<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキ、駐車ブレーキが効かない ●ブレーキ調節ができない 	ブレーキワイヤーの断線や折れ曲がり	ブレーキワイヤーの交換 (お買い求めの販売店へ)
	タイヤゴムの摩耗	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
	車輪の破損	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
<ul style="list-style-type: none"> ●高さ調節ボルトの締め付けができない、空回りして緩む ●ハンドルがぐらぐらと動く 	高さ調節ボルトのネジ山が摩耗	高さ調節ボルトの交換 (お買い求めの販売店へ)
	高さ調節ボルトが本体受け穴にセットされていない、しっかりと締め付けられていない	高さ調節ボルトを穴にきちんとセットし、締め付ける
<ul style="list-style-type: none"> ●車輪の回転がスムーズでない ●車輪固定ネジを締めてもグラグラする ●歩行時の直進性が悪い 	ごみの付着	ごみを取り除いてください
	車輪の破損、車輪ゴムの片べり	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
<ul style="list-style-type: none"> ●水平な場所でも歩行車全体が前後左右に傾く 	タイヤの摩耗	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
	ネジ、ボルト、ナットの緩み フレームの歪み	ネジ、ボルト、ナットを締めてください
		フレームに歪みが生じた場合、これ以上お使いになることはできません。(お買い求めの販売店へご相談ください)

警告

 必ず守る	破損・異常が発生した場合は、そのまま使用せずお買い求めの販売店にご連絡の上、点検・修理を受けてください。
---	--

11. 仕様

製品名	ニュートライウォーカー
型番	TR-60CB

項目	仕様	
幅	62cm	
奥行	60cm	
高さ	80cm ~ 95cm (6段階調節 / 3cmピッチ / 高さ調節：ノブボルト式)	
折りたたみ幅	26cm	
重量	約5.0kg	
車輪径 (前輪・後輪)	20cm	
バッグ寸法・仕様	幅30cm × 奥行24cm × 高さ35cm 前面斜角形状 / 容量約14ℓ / 保温・保冷仕様 / 着脱可能	
バスケット寸法・仕様	幅30cm × 奥行26cm × 高さ20cm 底部斜角形状 / 容量約11ℓ	
耐荷重 (最大使用者体重)	100kg	
制動兼駐車ブレーキ	ループブレーキレバー、タイヤ押付式	
材質	本体フレーム	アルミニウム
	ハンドグリップ	ポリ塩化ビニル (PVC)
	ブレーキレバー	ナイロン (PA)
	車輪	タイヤゴム：ポリウレタン (PU) ホイール：ポリプロピレン (PP)
	バッグ	ポリウレタン (PU)
	開閉ロックレバー	ナイロン (PA)
	高さ調節ノブボルト	ナイロン (PA)
	ブレーキ調節ネジ	ポリプロピレン (PP)
	ブレーキカバー	ポリアセタール (POM)

*記載の重量や寸法は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

12. 廃棄

各自治体により分別方法が異なることがありますので、それぞれの指示に従って処分や廃棄を行なってください。

13. 保障とアフターサービス

1. 保証書

この製品には保証書をお付けしております。

＜ご注意＞弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、
無償にて修理を行うことをお約束するものです。

2. 保証対象とその期間

お買い上げ日より1年間（消耗部品を除く本体）

3. 保証期間後

お買い求めの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有償修理させていただきます。

4. 消耗部品

・車輪 ・ブレーキ式 ・車輪ベアリング ・ハンドルグリップ ・バッグ ・バスケット ・杖用ストラップ
・開閉金具 ・開閉レバー ・高さ調節ボルト

5. 補修用部品の最低保有期間

弊社はこの商品の本体製造打ち切り後、5年間保有しています。

補修用部品とは、消耗部品を含むその製品の機能を維持するために必要な部品です。

6. 本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになるときは、必ず本書もあわせてお渡してください。

購入された方以外の不特定多数の方がご利用になる場合は、保証対象外となります。

7. 一度使用したものは、原則として製品のお取替えはできません。

＜お願い＞異常や不具合が見つかったら使用を中止して、すぐにお買い求めの販売店までご連絡ください。

3輪歩行車 ニュートライウォーカー 保証書

取扱説明書の記載内容に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無償修理いたします。
製品と本書をご持参のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。
製品の保管場所での出張修理や製品輸送の場合は、出張料や輸送費などの実費を申し受けます。

品名	ニュートライウォーカー	型名	TR-60CB
※お買い上げ日	年 月 日		
保証期間と保証対象	本体お買い上げ日より 1年		
※お客様お名前			お電話番号
ご住所	〒		
※販売店名			
ご住所	〒		

(印)

※印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

<ご注意>

- 保証の適用除外となる場合（保証期間内であっても次の場合には有償修理となります）
 - 製品の本来の使用目的に従わずして生じた故障・破損。
 - 改造や不当な修理による故障および損傷。
 - 弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損。
 - ご使用による消耗品および取扱不注意による破損。
 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、および公害、塩害、煙害、ガス害（硫化ガスなど）、などによる故障および損傷。
 - お取り扱いの不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損。
 - 一般に歩行車が通行しない場所、または特殊な状態での使用による破損。
 - 取扱説明書に従わずして生じた故障破損。
 - 取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障破損。
 - 本書にお買い上げ年月日、お客様名および販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 本書は盗難・火災などの不可抗力以外で紛失された場合は、再発行いたしませんので、大切に保存・保管してください。


*お客様にご記入いただいた記載内容は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただきます場合がございますので、ご了承ください。

*この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。

従って、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

2510-TR60CBV1

製造・発売元

 **株式会社 インタージェット AIJ福祉事業部**

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目7-38 TEL: 06-6393-3622 FAX: 06-6393-3822

<https://aij-osaka.com>